

◎熱帯林業講座◎

幼虫は豆科植物の花、種子、若葉を食う。エンドウマメ、大豆などの豆、アルファルファなどの作物の害虫として知られている。インドでは *Butea monosperma*, *Xylia xylocarpa* の葉、花序、若い果実を加害した報告がある。卵は寄生樹の各所に産卵され、蛹化は寄主上か落葉層中で行う。発育は気温によって違い、ヨーロッパでは多くは年1世代で暖地では2世代のことがある。ジャワでは卵から成虫まで5~7週間である。*Virachola isocrates* Fabricius はインドとパキスタンに分布し、幼虫は果実に穿孔し種子を加害する。蛹化前に被害果実を軸に糸で束ねるため、落下しない。ザクロの害虫であるが、*Achras zapota* や *Tamarindus indica* なども加害する。

新刊紹介

◎生命の樹—熱帯雨林と人類の選択— K. ミラー, L. タングレイ著 熊崎実
訳 270 pp. 岩波書店 東京 1993. 1. 27 刊 2,400 円

『生命の樹』という神秘的なおいのする題名を冠したこの本は、しかし神秘的な自然観について語った本ではない。その内容は、はじめから順にみていくと、森林の価値と森林破壊によって失われるものについての考察、世界的な森林破壊の歴史、アマゾンの熱帯林破壊、その他の地域の熱帯林破壊、政府は何ができるか、ボランティアによる森林保護と続き、最後の章は熱帯林を守るためにあなたにできることで締めくくられている。

この翻訳のもとになった“Trees of Life”という本は、アメリカの著名な民間研究機関で、森林・林業分野でも多くの実績を持っている World Resources Institute (WRI) が環境ガイドシリーズの1冊として出版したものである。著者の1人であるミラー氏は、WRIの森林・生物多様性部長で、国際自然保護連盟の元事務局長でもある。本書が生まれるまでには、WRIが組織をあげて支援していることが著者の謝辞からわかる。

日本語版では、原著の一部が削除され、配列が変わっているところもある。また、最後に訳者が「東南アジアの森林荒廃—訳者あとがきにかえて—」と題して15ページにわたってこの問題に対する訳者の考えを述べている。その中には一部、政府に対する痛烈な批判も含まれている。また、近ごろ地球環境問題に対する関心が高まったのに便乗して、地球環境との関係で地球的規模の森林がどうのこうのという人がいるが、「森林の問題はやはり地域の問題だといわなければならない」とも述べている。詳しい内容を知りたい方には、この本を読んでみることをお勧めする。

(岡 裕泰)